

2021年度 活動実績

はじめに 前年度に引き続きコロナ感染拡大の波は第4, 5波から年明け後第6波と広がり、香川県下では第4～5波にかけては大きな影響もなくマスク着用などに留意しながら、豊島での活動はほぼ例年並みに実施できたが、第6波ではまん延防止措置等の発令があり3月初旬の活動を中止することとなった。

1. 棚田の保全・景観 4～12月にかけては例年並みの活動回数を確保することができ六角庵周辺、棚田および田んぼは年度を通しほぼ良好な景観を確保できた。懸案となっていた雑草に覆われレンコンの花が咲かない池も再度レンコンを植え付け緑の池に再生できた。また、当くらぶの棚田に隣接する下側の棚田の草刈りも実施し、「唐櫃の清水」からの棚田の景観確保をすることができた。なお次年度も作業日には少しでも畔の草刈り作業ができる時間を確保していく。

2. 主な作物栽培

(1) 稲作 田植えは例年6月第3週の日曜日としてきたが、第2週の小麦の脱穀作業から連続にならないように1週遅らせ第4週とし、6月末に田植えをした。次年度からも第4週としていく。7～8月の草取りも毎回10人ほどの参加者があり予定通り3回実施できた。収穫量は例年並みの217kgとなった。ちなみに県下の作況指数は「101」であり「8月中旬は気温が低かったものの、9月下旬以降は気温が高く日照時間が確保されたため、米の粒の実りを示す『登熟』が『平年並み』に落ち着いた」と分析しています(中国四国農政局)。

(2) 蕎麦 畑3枚に作付けしたものの、畑1枚は全く発芽せず、1枚は10%ほど、残り1枚のみ100%の成長となり、結果として10kgほどの収穫量にとどまった。成長しない2枚の畑は雨水がたまり畑作には適しない畑のようである。

(3) 小麦 前年11月には畑3枚に種まきしていたうち1枚の畑は土壌が悪い為か他の2枚の畑に比べて明らかに生育が悪く、収穫量は例年よりも少し少ない40kgとなった。

(4) レンコン イノシシ被害に会い全滅し、その後2年間懸案になっていたレンコン池の再生に取り組むこととし、人力で池の除草をし、種レンコンを30本ほど植え付けた結果、レンコンの緑の葉で覆われた池が復活し、夏場の景観を確保することができた。

(5) 大豆 「豊島味噌づくり愛好会」の方々の要望もあり、大豆栽培に挑戦した。畑2枚に作付けし、

1枚の畑は結実したものの実が大きくなり、もう1枚の畑も1/2ほどしか大きくなり、2kgほどの収穫量にとどまった。次年度以降も大豆に加え小豆、黒豆の栽培にも試行していく。

(6) 花の栽培 「(株)サカタのタネ」さまから多量の向日葵の種(700粒)をいただき、棚田中段の畑に種まきをしたが、発芽率が悪く、雑草と共生した、少しの向日葵の花畑となり残念な結果となった。

(6) その他作物 玉ねぎ、ジャガイモ、サツマイモ、サトイモなど栽培。

3. 豊島の活動回数、参加者数 コロナ禍の影響が懸念されたが、年度計画の主要活動である田植え、稲刈りには各30人ほどの多数の参加者があり、また活動回数22回となり、延参加者数は256人と過去最多となった。なお年度当初の正会員は55人、賛助会員は2個人、3法人である。

4. その他特記事項

(1) 収穫物の販売 お米、蕎麦粉、小麦粉、ジャガイモ・サトイモなど会員で分かち合い、残りは販売し運営費に充当した。

(2) 水路補修 たんぼ山側水路にはみ出ている杭と防壁シートを再敷設し、畔の草を刈取り、大きな根っこを掘り出し、防草シートを敷設した。スッキリとした水路になり、清水が満々と流れ、景観も良くなった。

(3) 収穫祭他 12月に収穫祭を開催した。蕎麦は少ない収穫量であったが手打ちそば、や蕎麦ガレットを十分に楽しむことができた。コロナ感染拡大防止の観点から六角庵の海側広場で各自、各家族単位のシートに分かれての食事となった。また昨年引き続き4月の懇親会、2月の新年会などは中止とし、また4月の総会は書面開催とした。

(4) 活動助成金と広報活動 「イオン環境財団」さまへ毎年助成金申請書を提出し過去14年間に渡り助成金を頂いていた。次年度分についても申請書を提出するも、採択されないことになりましたが、長い間のご支援を感謝します。当くらぶの活動地は離島の豊島であるゆえ往来するための船賃が必要であり、参加者各自の負担を少なくすることが活動継続のためには必須であるとの認識のもと、対応策を探索した結果、「瀬戸内オリーブ基金」さまへ助成金申請をすることとし、申請書を提出したところ採択されることとなった。なお、申請に際し検討を重ねる中で、当くらぶの活動をさらに広く周知する必要があるとの声があり、今後さらなる広報活動の活性化に努めることとした。